

京王グループ中期経営計画「HIRAKU2030」の概要と評価分析

京王電鉄株式会社は2025年5月12日、2025年度から2030年度までの6年間を対象とした新しい中期経営計画「HIRAKU2030」を公表しました。この計画は京王グループの未来を切り拓くことを目指し、沿線価値と企業価値の向上に向けた取り組みを推進するものです。本報告では、この中期経営計画の内容と各観点からの評価について詳細に分析します。

中期経営計画「HIRAKU2030」の概要

基本方針と位置づけ

京王グループの新中期経営計画「HIRAKU2030」は、将来に向けて経営基盤を強化する重要な期間として位置づけられています。この計画は「国内で最も活気とポテンシャルがあるエリア」と「日本一安全でサービスの良い持続可能な交通」という長期的なビジョンの実現に向けた準備段階として策定されました^{[1] [2]}。

「HIRAKU」をテーマに掲げたこの計画では、2030年代に予定されている大規模投資の本格化に向けて、2030年度までの6年間で経営基盤を強化することを目指しています。これは前回中期計画（2022年度～2024年度）の成果を土台にしたもので、前計画では2024年度に過去最高の営業利益541億円を達成するなど、コロナ禍からの回復を示す結果を出しています^{[1] [2]}。

重点的な4つの取り組み

新中期経営計画では、以下の4つの分野に重点を置いた取り組みが計画されています：

1. ハード/ソフト一体での「まちづくり」の推進

- 大規模開発の推進
- 外部パートナーとの共創によるエリア価値向上

2. 新たな時代に向けた交通の創造

- DX技術の活用による安全性、生産性、サービスの向上
- 自動運転（ワンマン）化に向けた設備投資

3. 事業成長と財務課題解決の両立

- 不動産業・ホテル業への戦略的投資
- 事業別ROA管理の導入
- キャッシュアロケーションを踏まえた株主還元強化

4. サステナビリティ経営の推進

- 新たなマテリアリティKPIの設定

- コーポレート・ガバナンス改革
- 環境負荷軽減への取り組み強化^[1] ^[2]

成長性の観点からの評価

戦略的な設備投資計画

京王電鉄は2025年度の鉄道事業設備投資として総額434億円を計画しており、安全性とサービスの向上、自動運転化などの取り組みを進めることを発表しています^[3] ^[4]。この大規模な投資は、長期的な企業価値向上のための戦略的施策と評価できます。

特に注目すべきは、橋本駅の移設計画です。リニア中央新幹線の「神奈川県駅（仮称）」が設置される橋本エリアを「西の拠点」として位置づけ、駅移設計画を具体化する方針を示しています。リニア開業後は品川駅までの所要時間が10分程度になると見込まれており、これを活かした新たな輸送軸の創出と多摩ニュータウンの活性化を目指しています^[5]。

事業ポートフォリオの最適化

前回の中期計画期間中に、京王プラザホテル多摩や京王プレッソイン東銀座を閉館する一方で、NB建設（現京王建設横浜）やサンウッドを連結子会社化するなど、事業ポートフォリオの最適化を進めてきました^[1] ^[2]。新中期計画でも、不動産業・ホテル業を成長領域として位置づけ、注力する方針を示しています。

リスク対応の観点からの評価

安全対策への積極投資

京王電鉄は「安全性の向上」を最重要課題として位置づけ、ホームドア全駅整備、踏切道における安全対策、大規模災害に備えた耐震補強や豪雨対策などに取り組む方針です^[4] ^[6]。特に、線路脇法面の植栽を一部撤去し、法面の防護工事を実施するなど、気候変動リスクへの対応も進めています^[4]。

持続可能な事業運営体制の構築

少子高齢化やデジタル化が進む中、京王電鉄は自動運転（ワンマン）化に向けた設備の導入・改修や業務改善・改革の推進など、持続可能な事業運営体制の構築に注力しています^[6]。これらの取り組みは、中長期的な事業リスクへの対応策として評価できます。

人材戦略の観点からの評価

5つの柱による人材育成と組織改革

京王電鉄の人材戦略は、以下の5つの項目を軸に展開されています：

1. **人財確保**: 社内外を問わず優秀な人財確保のため、採用、処遇面、働き方、制度を柔軟に見直す
2. **人財育成**: 「安全・安心」の価値観を醸成し、専門人材を育成、自律的なキャリア形成を支援
3. **エンゲージメント**: 社員と会社が信頼でつながり、互いに成長する環境を整える

4. **DE&I (ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン)**：多様な個性を評価し、新たな価値を創造する組織を実現

5. **組織風土・組織構造**：挑戦を認め、失敗を許容する風土を形成、迅速な改革推進の組織を構築^[7]

この包括的な人材戦略は、京王グループの理念である「信頼のトップブランド」実現に不可欠な要素として位置づけられています。特に「挑戦を認め、失敗を許容する組織風土」の形成を目指す点は、イノベーションを促進するための重要なアプローチと言えます。

海外展開と知財無形資産戦略の観点からの評価

提供された検索結果からは、京王電鉄の中期経営計画における海外展開や知財無形資産戦略に関する具体的な言及は見当たりません。京王電鉄のような日本の鉄道会社は、主に国内での事業展開に注力する傾向があり、海外展開よりも国内での沿線価値向上や事業多角化に重点を置いているものと考えられます。

結論

京王グループの中期経営計画「HIRAKU2030」は、前回計画での業績回復を土台に、将来の大規模投資に向けた経営基盤強化を目指す包括的な戦略です。特に、リニア中央新幹線開業を見据えた橋本駅の移設計画やDXを活用した自動運転化など、未来志向の取り組みが特徴的です。

安全対策への継続的な投資やサステナビリティ経営の推進は、社会的責任を果たす企業としての姿勢を示すものであり、長期的な企業価値向上につながるでしょう。また、人材戦略においても、多様性を尊重し挑戦を促す組織風土の形成を目指すなど、時代の変化に対応した柔軟な姿勢が見られます。

今後は、公表された目標の達成状況や具体的な事業展開を注視することで、この中期経営計画の実効性と京王グループの将来性をより詳細に評価することができるよう。

✻

1. https://www.keio.co.jp/news/update/news_release/news_release2025/pdf/nr20250512_chukei.pdf
2. <https://www.nikkei.com/markets/ir/irftp/data/tdnr/tdnetg3/20250512/fb7sjl/140120250507532001.pdf>
3. https://www.keio.co.jp/news/update/news_release/news_release2025/pdf/nr20250512_setsubitoshi.pdf
4. <https://www.okinawatimes.co.jp/articles/-/1581412>
5. https://www.excite.co.jp/news/article/Trafficnews_546957/
6. <https://tms-media.jp/posts/58992/>
7. <https://www.keio.co.jp/company/sustainability/social/resource/>